

令和 7 年 9 月定例月議会

令和 7 年 9 月 2 4 日

総務教育常任委員会

資 料

報告事項

案件名	所管局・課	ページ
第 4 期長浜市教育振興基本計画の策定について（経過報告）	教育総務課	2
伊香具小学校・木之本小学校の統合にかかる進捗状況について	教育改革推進課	8
「学びの多様化学校」の設置について（経過報告）	教育指導課	1 6

教育委員会事務局

所管委員会	総務教育常任委員会
所管課	教育総務課

第4期長浜市教育振興基本計画の策定について（経過報告）

内容

1. 計画の概要

現在の第3期計画が、今年度末で5年間の計画期間満了を迎えます。

このことから、近年の社会情勢や教育環境等の変化により生じた新たな課題等に対応するなど現計画の必要な見直しを行い、次期計画となる第4期長浜市教育振興基本計画を策定します。

2. 計画の期間

令和8年度から令和12年度までの5年間

3. 策定に向けた検討状況

①協議・検討体制

- ・長浜市教育振興基本計画策定委員会（学識経験者等外部委員10名）
- ・庁内職員ワーキングチーム

②概要

- ・基本方針及び基本目標：第3期計画を継承
- ・施策の基本的方向及び具体的な施策
 施策数（51→37に集約）
 指標（より具体的かつ、市民目線での指標となるよう再設定）

4. 検討経過

令和6年11月12日	教育委員会11月定例会	着手報告
12月11日	総務教育常任委員会	着手報告
令和7年1月30日	第1回策定委員会	諮問・協議
3月25日	第2回策定委員会	協議
5月22日	第3回策定委員会	協議
7月4日	第4回策定委員会	協議・骨子決定
7月24日	教育委員会7月定例会	経過報告

5. 今後の予定

令和 7年 9月	総務教育常任委員会	経過報告
10月	第5回策定委員会	協議・素案決定
11月	教育委員会11月定例会	パブコメ前報告
12月	総務教育常任委員会	パブコメ前報告
	パブリックコメントの実施	
令和 8年 1月	第6回策定委員会	協議・答申
2月	教育委員会2月定例会	計画案として同意
3月	総務教育常任委員会	計画策定の報告

教育大綱

基本方針

つながりあい、学びあい、豊かに生きる人づくりをめざす「ながはま」

教育振興基本計画

施策の基本的方向

具体的な施策

基本目標1
乳幼児期における就学前教育を充実します

1 「生きる力」の基礎を培う就学前教育を推進します

(1)遊びや生活の中で子どもが自分で考え、判断し、行動する力が育つような保育を実践します
(2)多様性や個人差、教育的ニーズに応じた支援体制を充実します
(3)生きる力の基礎となる安心・安全な保育を提供します

基本目標2
子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します

2 一人ひとりの人権と学びを大切に教育を推進します

(4)子どもの育ちを見通した園小中義務教育学校の連携の中で、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培います
(5)各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを実施します
(6)すべての子どもたちが安心して学ぶ“機会”を提供します
(7)教職員の資質向上により一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図ります

3 「真の学力」の向上を目指します

(8)長浜スタイル（自ら学ぼうとする授業）による授業改善に取り組みます
(9)言葉の力を育成します
(10)教育DXを推進します
(11)体験等を通して学びに向かう力を育成します
(12)市内大学と連携した専門的分野の人材育成を推進します

4 「豊かな心」と「健やかな体」を育成します

(13)本に親しむ環境を整え、子どもの読書活動を推進します
(14)対話とふれあいを通して、道徳教育・人権教育を推進します
(15)体力の向上と健康の保持を増進します
(16)食育を推進します

基本目標3
学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします

5 学校・家庭・地域が一体となって学びの環境をつくりま

(17)地域と学校の連携と協働により「生きる力」を育成します
(18)子どもの安全を守るための環境整備を図ります
(19)児童虐待の早期発見と支援の充実を図ります
(20)中学校部活動の地域連携・地域展開を推進します

6 子育て支援と家庭教育の充実を図ります

(21)家庭教育を支援します
(22)安心して楽しく子育てができるよう支援します
(23)放課後児童クラブを充実します

7 人権尊重の社会づくりを推進します

(24)人権学習・啓発等を推進します
(25)男女共同参画に関する学習機会・啓発等を推進します

基本目標4
地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます

8 教育を通して地域の伝統や文化を継承していきます

(26)授業や出前講座を通じて地域の歴史・伝統文化にふれる機会を提供します

基本目標5
市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります

9 子どもから高齢者まで豊かに学び続ける生涯学習を推進します

(27)誰もが学べる場ときっかけ作りを提供します
(28)多様な学びの機会を提供します
(29)学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくりを支援します
(30)図書館サービスを充実します

10 文化・芸術の創造や振興とスポーツ活動を推進します

(31)文化芸術の体験機会を充実します
(32)市民が主体となる多様な文化芸術事業を推進します
(33)市民一人ひとりの運動・スポーツ活動を推進します

基本目標6
安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します

11 安全安心で質の高い教育のための環境を整備します

(34)誰もが安心して学べる学校・園施設等を整備します
(35)多様な研修を体系化し、教職員の研修を充実します
(36)教職員のウェルビーイングの向上をめざし、働き方改革を推進します
(37)学校園の適正配置の取組を推進します

基本方針

施策の基本的方向1 「生きる力」の基礎を培う就学前教育を推進します

(1)遊びや生活の中で子どもが自分で考え、判断し、行動する力が育つような保育を実践します
乳幼児期は、児童期における学びの基礎につながる芽生えを育む時期であることから、学びの連続性を意識した取組や地域の特色を生かした主体性を育む教育・保育内容の工夫を図ります。また、多様な保育ニーズに対し、子ども一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援体制を強化・充実し、必要かつ良質な教育・保育環境の整備を図ります。
(2)多様性や個人差、教育的ニーズに応じた支援体制を充実します
支援対象児や外国籍児に対して、一人ひとりの発達や特性に応じた支援について職員のスキル向上をめざし研修体制の充実に努めます。また、関係機関や小学校・義務教育学校との連携を図る中で、各園における支援体制の強化を図ります。
(3)生きる力の基礎となる安心・安全な保育を提供します
十分に養護の行き届いた環境のもと、身近な大人によって生命を守られ、愛される中で、人に対する愛情や信頼関係を育む保育を実践します。

施策の基本的方向2 一人ひとりの人権と学びを大切にする教育を推進します

(4)子どもの育ちを見通した園小中義務教育学校の連携の中で、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培います
就学前教育から小学校教育への円滑な接続を図るため、「生きる力」の育成を軸に据えて、幼児の遊びや生活が充実し、発展できるような保育を実践します。また、幼児期の学びを小学校・義務教育学校教育に活かせるよう、園と小学校・義務教育学校が子どもの姿を共有したり、発達や学びの連続性を踏まえ架け橋プログラムやスタートカリキュラムを基に保育・指導を充実します。
(5)各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを実施します
子どもたちの姿や地域の現状の把握を基に、各教科等の教育目標を実現するために、相互の関係で捉え、教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列していきます。また、「探究的な見方・考え方を働かせる」問題解決型の発展的学習等、教育内容の質の向上に向けて、教育課程の編成、実施、評価・改善を図る一連のPDCAサイクルを確立します。
(6)すべての子どもたちが安心して学ぶ“機会”を提供します
いじめや不登校を含む様々な問題に対して、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、総合的な対策を推進します。いじめ防止や早期対応を学校が組織で進めるとともに、不登校の児童生徒には個別に応じた支援を教育委員会も含めた組織で行います。また、発達段階や家庭環境に応じた教育相談を充実させ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関との連携を図ります。さらに、子どもの自尊感情を高め、多様な学びの機会を提供することで、全ての子どもが活き活きと過ごせる環境を整えます。
(7)教職員の資質向上により一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図ります
園小中義務教育学校間の連携のもと、しょうがいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成と内容の充実、活用を進め、長期的な視点で子どもの自立に向けての適切な指導や支援を行います。また、子どもに関わる教職員の専門性向上の取組を進めるとともに、インクルーシブ教育システムの構築に努めます。

施策の基本的方向3 「真の学力」の向上を目指します

(8)長浜スタイル(自ら学ぼうとする授業)による授業改善に取り組みます
児童生徒が自分で課題を発見し、見通しを持って解決に向かい、さらに協働的に考え、振り返る長浜スタイルによる授業改善に取り組み、この学習サイクルの中で、個々に応じた指導支援を行います。子どもを主語にした授業の確立のために、授業実践とICTとの最適な組み合わせを目指し、より効果的な学習スタイルを選択し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざします。またさまざまな教育データを活用し、エビデンスに基づく教育施策の推進に取り組みます。
(9)言葉の力を育成します
乳幼児期には、親子の絵本の読み聞かせなどを通じて、ふれあいの中で想像力や言葉の表現・意味の理解、聞く力といった「言葉の力」の基礎を育みます。学校教育においては、読む・書く・聴く・話すといった言語活動の充実を図り、自分の考えや意見を的確に表現できる力や、論理的な思考力の育成に取り組みます。また、家庭・園・学校・図書館が連携し、子どもたちが幼児期から読書に親しみ、継続的に読書習慣を身に付けられるよう、蔵書の整備や学校司書の活用、市立図書館の団体貸出制度を活用するなどして、読書環境の整備を推進します。
(10)教育DXを推進します
子どもたちが豊かな人生を送り社会を生き抜くために必要な力を身に付け、活躍できるよう、これまでよりも効果的で効率的な教育をめざし、教育の方法や指導の改革を推進します。特に教員のICT活用指導力向上と情報化による校務効率化に取り組み、指導時間の確保を図り、学力向上等子どもたちの育成に努めます。
(11)体験等を通して学びに向かう力を育成します
授業や放課後、週末等の多様な場面において、地域の大人と子どもがともに関わり合いながら、勉強、スポーツ、文化、自然体験など多様な体験活動に参加できる機会を充実させることで、地域への愛着を育むとともに子どもたちの豊かな学びの土台づくりを推進していきます。(長浜の自然および地域資源等を学びの素材とした体験活動を通して、仲間や地域の人々との協働を通じた協調性の育成)
(12)市内大学と連携した専門的分野の人材育成を推進します
理系専門大学が有する高度な専門知識・研究成果(シーズ)を活用し、中高生を対象とした科学技術や理数系分野への関心を高める取組を推進します。これにより、次世代を担う人材の育成を図り、将来のイノベーション創出や地域の産業力強化に資する人材基盤を形成します。

施策の基本的方向4 「豊かな心」と「健やかな体」を育成します

(13)本に親しむ環境を整え、子どもの読書活動を推進します

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。そのため、子どもたちが幼児期から読書習慣を身に付けることができるように、園・学校、家庭、地域が連携・協働体制をとり読書環境の整備を進めます。あわせて、外国にルーツをもつ子どもやしょうがいのある子どもなど多様な背景をもつ子どもたちへの読書の機会を支えます。また、家庭・地域・学校などが連携して、「子ども読書の日」や「子どもの読書週間」、「けやきっ子読書の日」に沿った事業を展開するなど、市全体で子どもの読書活動を推進する気運を高める取組を進めます。

(14)対話とふれあいを通して、道徳教育・人権教育を推進します

道徳教育の充実を図り、学校の教育活動全体を通して他人を思いやる温かい心を育むとともに、わがまち・長浜を愛する子どもの育成を図ります。さらに地域と連携し、学んだことを生かして行動できる道徳的実践力を高めます。また、あらゆる教育活動を通じて子どもたちの自尊感情を高めるとともに、人権についての正しい理解と認識を培い、人権を尊重する実践的な態度の育成に努めます。

(15)体力の向上と健康の保持を増進します

子どもたちの体力向上を図るために、日々の体育科学習の授業改善を推進します。また、運動に対する愛好的態度の向上をめざし、学校での休み時間等に進んで運動ができるよう取り組みます。中学校・義務教育学校の部活動では、専門性をもった指導員の配置や支援員の派遣を行い、生徒の競技力等の向上を図ります。さらに、健全な生活習慣を身に付けるために、健康診断や調査に基づき、一人ひとりの実態に応じた指導・支援を行います。

(16)食育を推進します

学校給食を通じて、子どもたちが食に関する正しい知識を身に付け、健全な食生活を考える力を養います。また、学校・園、家庭、地域が連携し、食文化への関心を育むとともに、残さず食べることの大切さを伝え、実践する力を育てます。さらに、食物アレルギーについても、正しい知識を深め、理解を促進するための取り組みを進めます。

施策の基本的方向5 学校・家庭・地域が一体となって学びの環境をつくります

(17)地域と学校の連携と協働により「生きる力」を育成します

「地域とともにある学校」の考えのもと、各校が学校運営協議会と連携を図りながら、保護者や地域の人の参画を得、その意見が反映される学校運営を進めます。
地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、子どもたちの地域での学びを通した「生きる力」を育むため、地域と学校のさらなる連携・協働の仕組みと体制づくりを進め、地域と学校をつなぐ役割の地域学校協働活動推進員の配置を推進します。地域の高齢者や保護者、地元団体など幅広い地域住民等の参画を得ながら、地域資源を活用した学びや体験活動など、子どもたちが地域の方と関わり、つながることで、地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図ります。

(18)子どもの安全を守るための環境整備を図ります

学校・家庭・地域が連携しながら、地域全体で子どもたちの安全を見守る体制づくりを進めます。特に、学校と連携してスクールガードの活動を支援するとともに、「子ども安全リーダー」、青少年センター、自治会等の関係機関との連携を推進します。

(19)児童虐待の早期発見と支援の充実を図ります

学校・家庭・地域社会が連携・協力することにより、子どもの人権を守る安全・安心な環境を作ります。
児童虐待の早期発見、早期対応を図るため、園・学校は日々の児の状況を把握するとともに、児や保護者が相談しやすい環境づくりに努めます。虐待が疑われる場合には、家庭児童相談室と速やかに連携し、適切に対応します。

(20)中学校部活動の地域連携・地域展開を推進します

部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行を推進し、地域の実情に応じた持続可能なスポーツ・文化活動の環境を構築します。また、中学校・義務教育学校においては、拠点校型部活動を当面の軸として外部指導者を活用し、子どもたちの活動の場を広げます。

施策の基本的方向6 子育て支援と家庭教育の充実を図ります

(21)家庭教育を支援します

地域と家庭の子育て力の向上を図るため、子育て中の方や、子育て支援に関心のある方々を対象に、子どもへの声かけや関わり方などの子育ての知識や、無理なく楽しく子どもを育むヒントを学ぶ機会として、家庭教育に関する講座を開催します。
また、園校において保護者を対象にした幼児期や思春期など子どもの発達段階に応じた学習機会の提供支援を行います。

(22)安心して楽しく子育てができるよう支援します

子育ての悩みや不安を気軽に相談できる場を設けることで孤立や不安を軽減します。また、子どもの遊び場や親同士が交流できる場を提供することで、子どもの健やかな成長を促しながら安心して子育てを楽しめるよう努めます。

(23)放課後児童クラブを充実します

放課後における児童の安全安心な居場所づくりのため、支援員や実施場所の確保のみならず研修や巡回指導の実施による支援員の知識・技術の向上に努め、放課後児童クラブの受け入れ態勢の整備と維持と質の向上を図ります。

施策の基本的方向7 人権尊重の社会づくりを推進します

(24)人権学習・啓発等を推進します

すべての人がお互いの「個性」を尊重し、多様性を認め合い、互いに支えあいながら人権が尊重される社会の実現をめざして、人権学習・啓発等を推進します。人権をめぐる今日の社会情勢を踏まえ、既存の人権問題とともに、インターネット上の人権侵害や性的マイノリティの人権など、時代の変化に合わせた人権啓発等を推進し、人権意識の高揚を図るため、人権学習会を開催します。

(25)男女共同参画に関する学習機会・啓発等を推進します

男女の人権が尊重され、一人ひとりが地域や家庭・職場等、社会のあらゆる分野でいきいきと活躍できる男女共同参画社会の実現をめざして、学習機会の提供や意識を高めるため、啓発イベント等を開催します。

施策の基本的方向8 教育を通して地域の伝統や文化を継承していきます

(26)授業や出前講座を通じて地域の歴史・伝統文化にふれる機会を提供します

市民が自分たちの地域の歴史や文化を通じて郷土を愛する心と豊かな情緒を培い、歴史文化が市民にとってさらに身近なものになるよう、関係機関と連携し、学校の授業や地域を対象に、歴史講座や伝統文化の体験学習等を開催します。

施策の基本的方向9 子どもから高齢者まで豊かに学び続ける生涯学習を推進します

(27)誰もが学べる場ときっかけ作りを提供します

市民の身近な学びの場として多様な生涯学習関連施設の活用と体制の充実を図り、まちづくりセンター等を地域の学びの拠点として学習機会の充実を図ります。学びや活動への主体的な参加のきっかけづくりのため、楽しさをベースとし、誰もが参加しやすい学びの場や地域づくりにつながるテーマの設定、子育て世代が参加しやすい活動などの工夫を図ります。年齢や性別、国籍やしようがいの有無に関わらず、すべての人が自身の希望に応じて学習できるよう、学習機会の提供や提供時の配慮を行います。講座等の学習情報について必要な時に必要な情報が入手できるよう、効果的な発信を進めます。

(28)多様な学びの機会を提供します

子どもから高齢者までライフステージに応じた生涯にわたる学習機会の提供を行います。地域の高校や大学、企業、市民活動団体など多様な組織や団体と連携し、地域づくりにつながっていく学習機会の提供や、本市が持つ歴史・文化・自然・産業など様々な魅力を学び、地域への愛着と誇りの醸成を図る講座、オンラインを活用した学びなどICTを活用して地理的・時間的・空間的制限にとられない学びなど、多様な学びの機会の提供を図ります。

(29)学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくりを支援します

生涯学習を推進していくためには、課題やニーズをふまえ、様々な人や組織と連携協働しながら学びの活動を計画・支援する人材の役割が重要となることから、生涯学習事業の企画運営に関わる職員やスタッフ等の人材育成や研修の充実を図ります。また、学びが学ばだけで終わるのではなく、学びの成果や今までの知識・経験を活用し、人づくり・つながりづくり・地域づくりにつながる生涯学習の推進を図ります。

(30)図書館サービスを充実します

市民の豊かな学びを支えるため、誰もが図書館サービスを受けられるよう、より身近な図書館サービスの提供をめざします。そのために、市民の暮らしに役立つ資料の充実をさせるとともに、多様な資料要求に応じていきます。また、レファレンス機能を強化し、一人ひとりに寄り添ったきめ細かい資料提供をおこなうことで、市民が暮らしの中でより身近で便利に図書館を利用できるようなサービスの充実に努めます。

施策の基本的方向10 文化・芸術の創造や振興とスポーツ活動を推進します

(31)文化芸術の体験機会を充実します

誰もが文化芸術活動に触れる体験機会を充実させ、地域資源と融合した長浜独自の文化芸術を創造します。また、次代を担う子どもたちや若者たちの感性や創造力を育成する活動の支援を行います。

(32)市民が主体となる多様な文化芸術事業を推進します

市民や文化芸術団体の主体的な活動を支援するとともに、市民が利用しやすい文化芸術活動の場を整えます。

(33)市民一人ひとりの運動・スポーツ活動を推進します

すべての市民がスポーツを通じて健康で活力あふれる生活が送れるよう、子どもから大人まで幅広く運動習慣を身につけ、スポーツが生活習慣の一部となるような取組みを進めます。

施策の基本的方向11 安全・安心で質の高い教育のための環境を整備します

(34)誰もが安心して学べる学校・園施設等を整備します

学校・園施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす学習や生活の場です。安全・安心な教育環境を維持していくため、学校の適正配置を踏まえた上で計画的な長寿命化改修等を通じて、教育環境の向上と老朽化対策の一体的な整備等を推進します。また、インクルーシブ教育の理念に基づき全ての子どもが地域で教育を受ける機会を整えるため、エレベーターの設置等、施設のバリアフリー化にも継続して取り組みます。

(35)多様な研修を体系化し、教職員の研修を充実します

学校・園のニーズや今日的な課題を踏まえ、就学前教育から中学校教育までの連続的な学びに対応する研修体制を整えるとともに、各現場での主体的な研修を推進・支援していきます。また、それぞれの経験に応じた指導力や教育課題解決力を向上させる実践的な研修を推進し、保育力、授業力、指導力、マネジメント能力等、今求められている「教師力」を向上させる研修の充実にも努めます。

(36)教職員のウェルビーイングの向上をめざし、働き方改革を推進します

学校や園での教育は、教職員と子どもたちが人格的なふれあいを通じて行われるものであることから、教職員が心身の健康を保ち、ゆとりをもって子どもと向きあうことができるよう、業務量の適切な管理と教育職員の健康及び福祉の確保を図るための措置を行うよう努めます。保育を楽しみ、やりがいを感じられるよう職員同士がコミュニケーションを積極的に取り、働きやすい職場作りに努めます。

(37)学校園の適正配置の取組を推進します

長浜市学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針に則り、子どものための教育の質的充実、教育の機会均等及び水準確保における学校間格差の是正に向けて、保護者や地域等の意向を十分に踏まえながら、学校園の適正配置の取組を推進します。

所管委員会	総務教育常任委員会
所管課	教育改革推進課

伊香具小学校・木之本小学校の統合にかかる進捗状況について

内容

1. 趣旨

学校適正配置の観点及び伊香具地域からの要望を受け、伊香具小学校と木之本小学校の統合について協議を進めてきました。その結果として「伊香具小学校・木之本小学校統合準備協議会」から提案書が提出され、これをふまえ、令和 7 年度末をもって伊香具小学校を廃止し、令和 8 年 4 月に伊香具小学校と木之本小学校を統合することとします。

2. 内容

統合後の学校：木之本小学校（長浜市木之本町木之本 685 番地 1）

廃止する学校：伊香具小学校（長浜市木之本町大音 1114 番地）

廃止予定日：令和 8 年 3 月 31 日

3. 経過

令和 6 年 9 月 「伊香具小学校の在り方を考える懇談会」の設置

令和 7 年 3 月 「伊香具小学校の在り方を考える懇談会」から提言書提出

令和 7 年 5 月 「伊香具小学校・木之本小学校統合準備協議会」の設置

令和 7 年 8 月 統合にかかる地域説明会開催

令和 7 年 9 月 「伊香具小学校・木之本小学校統合準備協議会」から提案書提出

4. 今後の予定

令和 7 年 9 月 教育委員会定例会（長浜市立学校等の廃止について）

令和 7 年 12 月 定例会議会（長浜市立学校の設置等に関する条例の一部改正）

令和 8 年 4 月 伊香具小学校と木之本小学校の統合

伊香具小学校・木之本小学校の統合に向けて
— 方向性の提案 —

令和7年9月1日

伊香具小学校・木之本小学校統合準備協議会

1 取組の経緯

令和7年3月、「伊香具小学校の在り方を考える懇談会」での議論を経て、伊香具小学校と木之本小学校の統合にかかる提言が長浜市に行われました。この提言を受け、令和7年5月、2校の統合に向けた「伊香具小学校・木之本小学校統合準備協議会」が設立され、今年度4回にわたる協議会を開催しました。

本協議会では、伊香具地域、木之本地域の子どもたちにとって、安全で豊かな教育環境づくりを主眼に置いた検討協議を重ねてまいりました。この検討協議で提案した方向性を踏まえ、長浜市および長浜市教育委員会、ならびに関係機関、関係団体においては、統合後も新しい木之本小学校の充実発展に向けた取組を継続されることを期待します。

2 基本的な事項

伊香具小学校と木之本小学校の統合に際し、統合後の学校名称、校歌、校章については、木之本小学校のものを引き続き使用することとする。

3 方向性の提案

第Ⅰ部会

視点1 特色ある教育について

(取組の方向性)

- (1) 両校が大切にしてきた特色ある教育活動をできる限り継続することを望む。
- (2) 統合によって子どもの人数が増えることを前向きにとらえ、新たな活動や学びの可能性を広げていくことを望む。
- (3) 統合後は両校の活動の良いところを取り入れ、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう配慮することを望む。

視点2 地域との交流について

(取組の方向性)

- (1) 地域と連携した行事や交流活動を大切にし、地域の文化やつながりを次の世代につなげていくことを望む。
- (2) 保護者や地域の意見を柔軟にとりいれながら、子どもにとってよりよい学校づくりを進めることを望む。

視点3 通学方法について

(取組の方向性)

- (1) 通学方法については、安全面に最大限配慮し、子どもたちが無理なく通える環境を整えることを望む。
- (2) 伊香具学区からの通学のスクールバスについては2台体制とすることにより、児童が安心して登校できるよう配慮することを望む。

第Ⅱ部会

視点1 服装・持ち物について

(取組の方向性)

- (1) 制服やかばん、持ち物については、無理に新しく買いそろえさせるのではなく、今あるものをできるだけ活用できるよう配慮することを望む。
- (2) 体操服の統一にあたっては、保護者負担が大きくなるよう、市からの補助を受けられるようにすることを望む。
- (3) 帽子については、木之本小学校で取り入れられている学年ごとの色帽子の制度を継続することを望む。

視点2 子どもの声と交流の場づくりについて

(取組の方向性)

- (1) 伊香具小学校・木之本小学校の子どもたちが事前に交流できる機会を持ち、不安をやわらげ、安心して統合を迎えられるようにすることを望む。
- (2) 統合後も子どもたちの気持ちや声を継続的に把握し、必要に応じて対応できる体制を整えることを望む。

視点3 学校の設備について

(取組の方向性)

- (1) 老朽化した施設の整備を進め、子どもたちが気持ちよく過ごせる環境を整えることを望む。
- (2) 防犯カメラの増設や安全設備の改善など、安全面でも安心できる学校づくりを進めることを望む。
- (3) 図書館の本については、伊香具小学校の蔵書を大切にしながら、新しい学校でも有効に活用できる仕組みを考えることを望む。

視点4 学校と保護者、地域とのかかわりについて

(取組の方向性)

- (1) PTA や学校運営協議会などの組織は、地域の実情をふまえて、無理なく協力し合える体制とすることを望む。
- (2) 放課後児童クラブについては、将来的な利用増を見すえ、場所や人員体制などの準備を進めることを望む。

4 資料

資料 1

伊香具小学校・木之本小学校統合準備協議会 規約

(趣旨)

第1条 伊香具小学校と木之本小学校の統合を円滑に進めることを目的として開催する「伊香具小学校・木之本小学校統合準備協議会」(以下、「協議会」という。)の運営に関して必要な事項を定めるものとする。

(協議事項)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項について協議し、調整するものとする。

- (1) 特色ある教育活動に関する事
- (2) 通学や服装等生活環境に関する事
- (3) 地域との交流に関する事
- (4) 施設・環境整備に関する事
- (5) P T Aや学校運営協議会等各種組織に関する事
- (6) その他、統合に関して必要な事項

(委員等)

第3条 協議会は、委員20人程度をもって組織する。

2 協議会は、次の各号に掲げる者で構成する。

- (1) 保護者の代表
- (2) 学校運営協議会の代表
- (3) 地域の代表
- (4) 教職員
- (5) その他、教育委員会が適当と認めるもの

3 委員の他に、必要に応じて関係者や学識経験者をオブザーバーとして招請することができる。

4 第2条に掲げる事項について協議するため、必要な部会を設けることができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、学校統合までの日とする。ただし、委員が欠けた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときまたは会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

2 会議は、委員の過半数の出席をもって開催することができる。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会議は、原則として傍聴を認めるものとする。ただし、会長が必要と認めた場合は、傍聴を制限または禁止することができる。

(事務局等)

第7条 協議会の事務局を長浜市教育委員会内に置き、庶務は教育改革推進課が処理する。

(雑則)

第8条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、会長が別に定める。

附則 この規約は、決定の日から施行する。

R7~R13児童数推計

伊香具小学校

学 年	R7			R8			R9			R10			R11			R12			R13		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	3	2	5	2	2	4	2	1	3	2	2	4	1	2	3	1	2	3	0	1	1
2	3	1	4	3	2	5	2	2	4	2	1	3	2	2	4	1	2	3	1	2	3
3	3	5	8	3	1	4	3	2	5	2	2	4	2	1	3	2	2	4	1	2	3
4	6	3	9	3	5	8	3	1	4	3	2	5	2	2	4	2	1	3	2	2	4
5	2	6	8	6	3	9	3	5	8	3	1	4	3	2	5	2	2	4	2	1	3
6	4	6	10	2	6	8	6	3	9	3	5	8	3	1	4	3	2	5	2	2	4
計	21	23	44	19	19	38	19	14	33	15	13	28	13	10	23	11	11	22	8	10	18

木之本小学校

学 年	R7			R8			R9			R10			R11			R12			R13		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	9	14	23	11	16	27	12	11	23	5	15	20	12	8	20	9	9	18	7	12	19
2	14	15	29	9	14	23	11	16	27	12	11	23	5	15	20	12	8	20	9	9	18
3	15	19	34	14	15	29	9	14	23	11	16	27	12	11	23	5	15	20	12	8	20
4	13	11	24	15	19	34	14	15	29	9	14	23	11	16	27	12	11	23	5	15	20
5	15	21	36	13	11	24	15	19	34	14	15	29	9	14	23	11	16	27	12	11	23
6	15	17	32	15	21	36	13	11	24	15	19	34	14	15	29	9	14	23	11	16	27
計	81	97	178	77	96	173	74	86	160	66	90	156	63	79	142	58	73	131	56	71	127

統合後

学 年	R8			R9			R10			R11			R12			R13		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	13	18	31	14	12	26	7	17	24	13	10	23	10	11	21	7	13	20
2	12	16	28	13	18	31	14	12	26	7	17	24	13	10	23	10	11	21
3	17	16	33	12	16	28	13	18	31	14	12	26	7	17	24	13	10	23
4	18	24	42	17	16	33	12	16	28	13	18	31	14	12	26	7	17	24
5	19	14	33	18	24	42	17	16	33	12	16	28	13	18	31	14	12	26
6	17	27	44	19	14	33	18	24	42	17	16	33	12	16	28	13	18	31
計	96	115	211	93	100	193	81	103	184	76	89	165	69	84	153	64	81	145

所管委員会	総務教育常任委員会
所管課	教育指導課

「学びの多様化学校」の設置について(経過報告)

内容

本市では、「誰一人取り残さない長浜の教育の実現」に向けて、学校へ行きづら、登校できない児童生徒に対して、様々な支援に取り組んでいるところです。

不登校児童生徒への新たな支援策として、令和 8 年 4 月に「学びの多様化学校」を設置することに向け、取り組みを進めます。

1. 学びの多様化学校とは

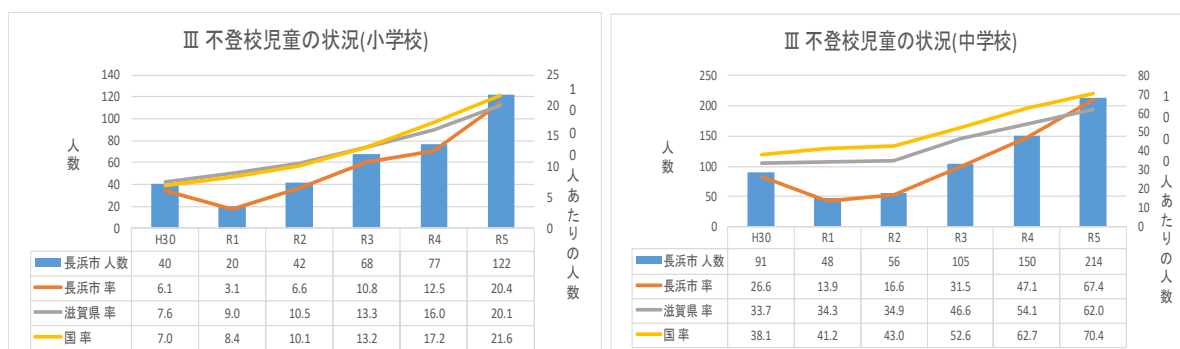
増加する不登校児童生徒への対策として、不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育が実施する文部科学省指定の学校で、学校教育法施行規則第 56 条・教育機会確保法第 10 条等に基づいて文部科学大臣が指定するもの。令和 7 年 4 月現在全国に 58 校（公立学校 37 校、私立学校に 21 校）が設置されています。廃校など学校設備をそのまま活用する「学校型」、一般の小・中学校を母体とする本校をもち、一部の学級のみを学びの多様化学校として指定する「分教室型」、高等学校等で一部のコースを学びの多様化学校として指定する「コース指定型」など、様々な設置形態があります。

現在、滋賀県において、「学びの多様化学校」を設置している自治体はありません。

2. 長浜市で設置する目的

本市においても、国・県同様、不登校児童生徒数は増加しています。令和 5 年度の不登校児童生徒数は、小学校で 122 人、中学校で 214 人となり過去最多人数となりました。これは、小学校児童数の 2%（クラスに約 0.7 人）、中学校生徒数の 6%（クラスに約 2 人）となっており、小中学校とも 5 年前の約 3 倍となっています。

【参考資料①】本市の不登校の状況（文部科学省：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より）



現在、本市では、各学校で別室での学習やＩＣＴを活用した支援を行い、加えて長浜市教育支援センターにおいても様々な支援を行っています。また、令和６年度からは、フリースクールなどの民間施設へ通う児童生徒の保護者の内、生活保護費又は就学援助を受給している世帯を対象に、授業料の一部を補助する事業も開始しました。しかしながら、本市の不登校の状況やその理由が多様化してきており、支援のさらなる充実が必須になってきています。

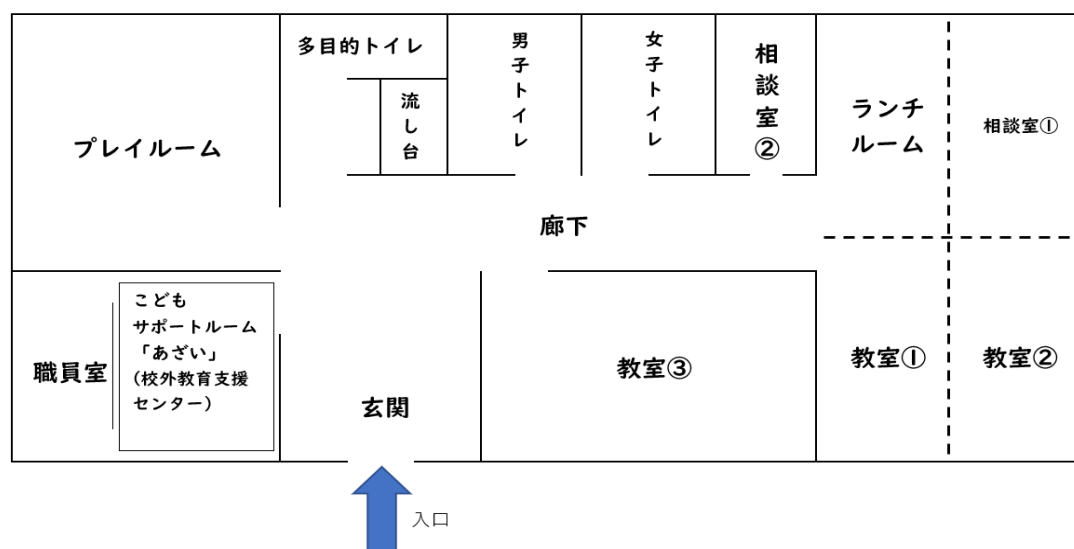
本市としては、現在の支援に加え、長浜市の教育目標である「誰一人取り残さない長浜の教育の実現」に向けて、不登校生徒が社会的自立を目指す新たな学びの場として「学びの多様化学校」を設置したいと考えます。

3. 設置場所

浅井体育館の近くにある校外教育支援センターこどもサポートルーム「なないろ(あざい)」が利用している建物内に「学びの多様化学校(浅井中学校分教室)」を開校します。

開校後も、こどもサポートルーム「なないろ(あざい)」は学びの多様化学校と並行して設置します。

学校平面図



4. 対象

- ・長浜市内に在住している中学生
 - ・不登校(連続または継続して 30 日以上欠席している生徒)または不登校の傾向がみられる生徒
 - ・教育委員会が設置する入退室審査委員会において分教室への入室を認めた者
- 以上の 3 つの条件を満たす者

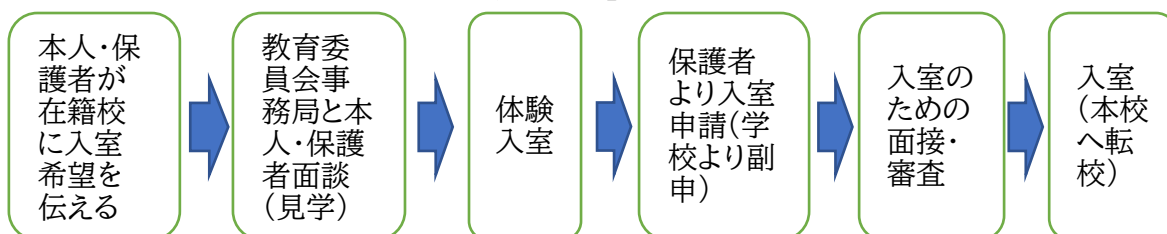
5. 設置形態および想定人数

- ・長浜市立浅井中学校を本校とする「分教室型」とします。
- ・本校とは別の教育課程で学習を行います。
- ・初年度は、各学年 5 名程度を想定しています。

6. 「学びの多様化学校(浅井中学校分教室)」へ入室するために

- ・居住地の中学校から本校に転校します。(居住地に住所は置いたまま転校することができます。)
- ・希望する生徒および保護者に聴き取りを行い、「学びの多様化学校(浅井中学校分教室)」で学びたいという意思などを十分に確認し、教育委員会事務局において審査を行います。

7. 「学びの多様化学校(浅井中学校分教室)」への入室までの流れ



8. 設置による教育上の効果

- ・少人数集団での学び、個に応じた指導などのきめ細やかな支援が行える。
- ・ゆとりある教育課程の編成により、登校へのハードルが下げられる。
- ・進路選択の幅を広げることができる。
- ・異学年の交流により社会性の育成につながる。

9. 今後のスケジュール(予定)

令和7年	9月	総務教育常任委員会(進捗状況・設置場所報告)
	10月上旬	保護者・生徒への説明会(プレス発表)(2回を予定)
	10月下旬	見学会
	11月中旬	体験入室・入室募集
	12月	入室審査
令和8年	1月	入室決定
	4月	開校

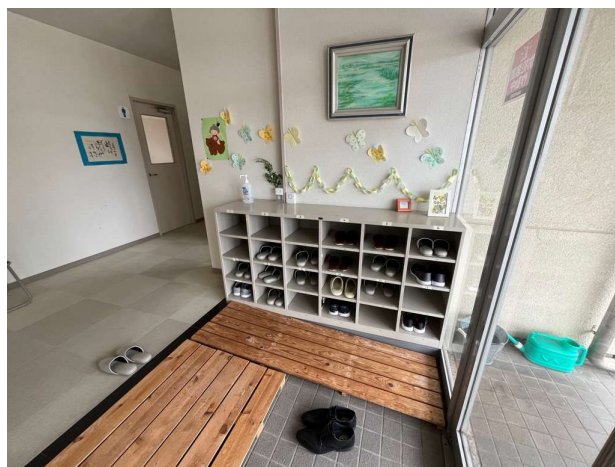
10. その他

- ・通学については、虎姫駅からのジャンボタクシーを想定しています。虎姫駅までのJR定期代についても義務教育であるため、通学にかかった費用は扶助を行います。公共の乗り物に乗れない生徒は、自家用車での送迎となります。入室審査の際に、本人・保護者へ通学方法について十分に聴き取りを行います。

学びの多様化学校 現況写真 1/2



外観(正面)



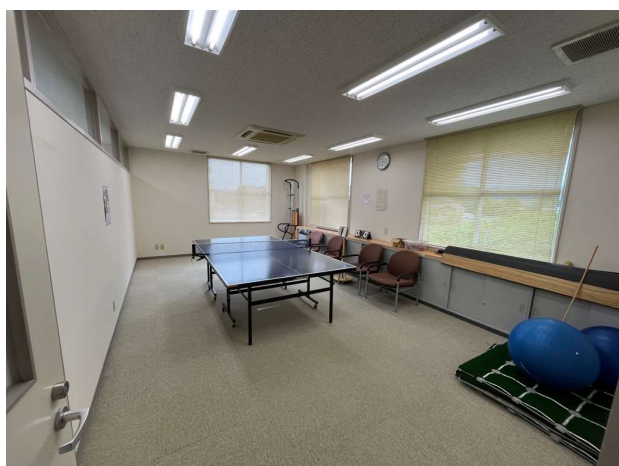
玄関



職員室



こどもサポートルーム「あざい」



プレイルーム



廊下

学びの多様化学校 現況写真 2/2



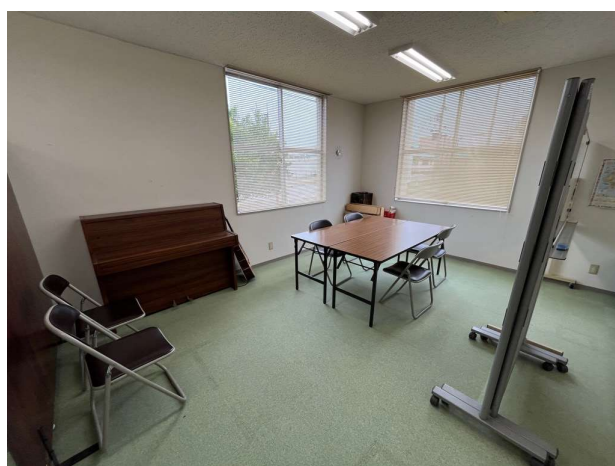
ランチルーム



相談室①



教室①



教室②



教室③



男子トイレ